

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山学芸館高等学校（※正式名称を記載）

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒704-8502

岡山県岡山市東区西大寺上 1 丁目 19-19

E-mail info@gakugeikan.ed.jp

Website <http://www.gakugeikan.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 763 名 女子 580 名 合計 1343 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

【目的】

当校は、1966 年（昭和 41 年）に英語科が設置され以来、オーストラリアを中心に世界各国のさまざまな国々と国際交流を行ってきた。そのなかで、2007 年（平成 19 年）よりタイ・カンボジア研修を開始し、高校生が主体となった途上国への支援プロジェクトを行うようになった。この活動をきっかけに、本校は「開発途上国における貧困の悪循環を是正するために高校生ができること」をテーマに 13 のプロジェクト活動を展開していきながら、下記の力の育成を目指している。

- ① グローバル社会で必要とされる「グローバルマインド」の育成
- ② 問題解決能力の育成
- ③ 交渉型コミュニケーション能力の育成
- ④ 協働力の育成
- ⑤ 実践力の育成

【1年次の活動】

1年次は「グローバルマインド」と「問題解決能力」の2つに重点を置いたカリキュラムと活動を行っている。授業はおもにアクティブ・ラーニング形式で行っており、生徒が問題を発見し、グループワークのディスカッションやプレゼンテーションを通して主体的に答えを見いだしていく学習を行っている。そのなかで、岡山大学大学院教育学研究科と連携し、教授や院生による授業も定期的に行なわれながら、生徒の活動をサポートしている。

【2年次の活動】

2年次では、カンボジアに訪問し、現地にて貢献活動のフィールドワークを行っている。日本国内で入念に準備計画を立て、現地で実行し、その成果を確認している。現地でのフィールドワーク活動は、下記のテーマで行っている。

- ① トンレサップ湖水質調査プロジェクト
- ② トンレサップ湖環境教育プロジェクト
- ③ ゴミ山生活向上プロジェクト
- ④ ゴミ山政策提言プロジェクト
- ⑤ チェイ村追跡調査プロジェクト
- ⑥ スポーツ支援プロジェクト
- ⑦ フェアトレードプロジェクト
- ⑧ 国際理解教育プロジェクト
- ⑨ 幼稚園幼児教育支援プロジェクト
- ⑩ 幼稚園給食改善プロジェクト
- ⑪ 幼児教育型ものづくり（玩具）プロジェクト
- ⑫ 日本語教材プロジェクト
- ⑬ デニムリレーションシッププロジェクト
- ⑭ その他（岡山県ユネスコスクール 実践交流会・事前学習会への参加）



ゴミ山ヒアリング調査



水上生活者ヒアリング調査



幼稚園教育支援プロジェクト



カンボジア衣料支援プロジェクト

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入: 問題解決能力)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述: ボランティア活動や地域のイベント活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ ユネスコ協会 公式ホームページ
<http://unesco.or.jp/>
- ・ ユネスコスクール 公式ホームページ
<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>
- ・ 外務省 SDGs
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html
- ・ 外務省 MDGs
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ① 当校は、3年前よりSGH校として認定されていることもあり、「グローバル課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」という1単位の授業を展開している。そのなかで、主に上記にあげた13のプロジェクト活動を行っている。
- ② 岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク協議会が主催する実践交流会や事前学習会にも参加し、岡山県下のユネスコスクールとの交流も行っている。
- ③ 岡山市のESD推進課と連携し、今年度はブルガリアのユネスコスクール（3校）との交流事業も行った。
- ④ 地域のイベント・交流会に参加し、当校の活動を発表。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ① 上記の①でも述べたように、1年次は「グローバル課題研究Ⅰ」、2年次は「グローバル課題研究Ⅱ」、3年次は「グローバル課題研究Ⅲ」を設定し、1単位の授業を展開している。
- ② ユネスコ部を創部し、継続的な活動を展開している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ① 岡山市ESD推進課より指導と講評。
- ② 岡山大学大学院教育学研究科による指導と講評。
- ③ 岡山大学ESD推進課 ESDコーディネーターによる指導と講評
- ④ 岡山大学地域総合研究センター（AGORA）による指導と講評
- ⑤ 岡山ユネスコ協会・岡山ユニセフ協会による指導と講評

【成果と課題】

- ① 外部の機関からの指導を受けることで、指導内容の向上が図れた。
- ② 大学教授・大学院生による授業を定期的に行うことで、よりアカデミックで実践的な内容の学びを行うことができた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

- ① 岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク協議会主催
→実践報告会・事前学習会での研究発表
- ② S G H 研究発表会
→広島女学院高等学校と協力
- ③ 岡山市 E S D 推進課からの依頼によるイベント参加
→「いきものフェスタ」への参加。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、E S D 活動支援センター、E S D コンソーシアムとの連携など）
（２００字程度）
※チェック事項 2-3 に対応

当校の協力機関は、下記の通りである。

- ① 岡山市 E S D 推進課
- ② 岡山大学大学院教育学研究科
- ③ 岡山大学 E S D 協働推進室 E S D コーディネータ
- ④ 岡山県教育委員会
- ⑤ 岡山ユネスコ協会・岡山ユニセフ協会、その他 N P O 法人

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

今年度より岡山市 E S D 推進課と連携し、ブルガリアのユネスコスクールと交流事業を展開。今年度はブルガリアの学校が岡山を訪問し、当校で交流会を開催した。また、岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク協議会が主催したブルガリア交流会にも参加した。来年度は、岡山県のユネスコスクールがブルガリアを訪問する予定である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- ① 英語力の向上が図れた。
→英語検定準2級以上の取得者が急増。
- ② 問題解決能力の育成
→AO入試、推薦入試で本校の活動をアピールして試験に合格
- ③ S G H 甲子園の全国大会出場
- ④ カンボジアからの留学生の受け入れ（1年間）
→カンボジアカレーやフェアトレード商品を地域のイベント等で販売し、そこで得た利益をカンボジアから招く留学生の渡航費にあてる。
→カンボジアから招いた留学生は1年間当校に在籍し、日本語の習得を図る。また、留学生といっしょに近隣の小学校を訪問し、カンボジアの理解を図るための出前授業を定期的に行っている。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 平成29年度の活動を継続的に実施。
→13のプロジェクトを継続的に実施
- ② 海外研修の実施
→カンボジア研修、インド研修、ミャンマー研修、パラオ研修、台湾研修
- ③ ブルガリアのユネスコスクールとの交流事業
→9月に岡山県下のユネスコスクールの代表生徒がブルガリアを訪問。
- ④ 岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク協議会主催の実践交流会と事前学習会に参加。
- ⑤ 地域のイベント参加
→カンボジアカレーやカンボジアのフェアトレード商品を販売し、カンボジアの支援活動を行う。